

通りの誕生

屯田兵のくらし



山鼻兵村開設碑

当時の屯田兵は、原則として士族階級とされ、第1回目の応募年齢は、18~35歳、従事期間は無期限とされていました。

移住の支度料として、一人につき1~2円、家財運搬料として2円60銭、旅費に一人33銭が支給されました。さらに、入植後3年または5年は、生活費も出ていました。(当時、米50キロの価格が約1円)

屯田兵が暮らした兵屋は、約58平方メートルの平屋建てで、間取りは、土間と板の間があり、その奥に押し入れ付きの4畳半と8畳となっていました。井戸と風呂は4戸が共同で使っていたといえます。



山鼻屯田兵屋

翌九年五月には、兵屋は完成を迎え、青森県や山形県の士族を中

東西屯田通物語

屯田兵が切り開き、市内有数の商店街へ発展した東西屯田通。その歴史と商店街活性化の取り組みをご紹介します。

明治八年十月、札幌の防衛と開拓を目的に山鼻村で屯田兵屋二百四十戸の建設が始まりました。当時の山鼻村一帯は、巨木が林立し、つる草やクマザサが生い茂る原野が広がっていました。さらに、この年の冬は記録的な大雪にも見舞われ、兵屋の建設は大変過酷な状況の中で行われたとい

心とした屯田兵千百十四人が入植し、山鼻村開拓の礎となりました。

屯田兵が住んだ兵屋は、石山通(国道二二〇号)を基点に東側区域(現在の南八~二十三条の西八・九丁目区域)と西側区域(南六~二十一の西十二・十三丁目の区域)に百二十戸ずつ配置され、それぞれ区域の中心には石山通と平行して、幅約十一メ

トルの通りが造られました。通りには、すべての兵屋が面しており、屯田兵とその家族たちが行き交い、日々の暮らしを営むメインストリートとなっていました。

この東と西の通りが、後に「東屯田通」、「西屯田通」と呼ばれるようになり、その後、時代とともに変遷を重ねながら、商店街として発展していくことになるのです。

写真で見る街並みの移り変わり

西屯田通



東屯田通



中央 / 明治9年、屯田兵が入植したころの山鼻村一帯。南15条西8~13丁目付近と思われる

右上 / 昭和52年の東屯田通、右下 / 現在の東屯田通

左上 / 昭和52年の西屯田通、左下 / 現在の西屯田通

昭和30~50年代は、商店街に最も活気があふれていた時期だった(写真:札幌市教育委員会文化資料室所蔵)